

平成 25 年度 全国開拓青年・女性研修会 in 岩手 開催結果（概要）

平成 25 年 11 月 19 日から 21 日にかけて、開拓三団体（全日本開拓者連盟、全国開拓農業協同組合連合会、当協会）の共催により、全国開拓青年・女性研修会を開催し、総勢 90 名が参加しました。

初日の 11 月 19 日は、ホテルサンルート一関（岩手県一関市）にて、藤原隆史氏を講師にお招きし、「偏差値じゃない～奇跡の高校将棋部～」と題し、講演会を開催しました。開会の挨拶を太田哲連盟青年部長、開拓三団体を代表しての主催者挨拶を西谷悟郎連盟委員長、開催ブロック歓迎の挨拶を野原修一岩手県開拓振興協会理事長が行い、講演に移りました。

藤原隆史氏は、盛岡市出身で、平成 6 年より岩手中・高等学校（盛岡市）で数学科の教諭をされています。教鞭をとるかたわら、同校の囲碁将棋部の監督・顧問を務め、全国高校将棋選手権で、平成 23 年、24 年、25 年と団体部門三連覇、通算 4 度目の日本一に導きました。

講演では、まず昨年関東地区でテレビ放映された、同校将棋部のドキュメンタリー番組が上映されました。同校は私立の男子校で、偏差値は普通のレベル、部員は総勢 50 名で、大半が初心者だそうです。



講演の様子

藤原氏は、将棋に限らず生徒に話していることとして、3つのキーワードを挙げました。

①「意志あるところに道はある」

アポロ計画を例に挙げ、絶対に無理に思われることでも、意志を持って徐々に道を作りながら挑戦していくことが達成につながる。

②「反省の上に成長あり」

何が失敗の原因で、何を改善すればいいのかを考えることで成長する。

③「偽りの果てに誇りなし」

将棋・囲碁の戦法で「ハメ手」と呼ばれる、一見スキのある手を打ち、相手がそれに引っかかって欲張った手で対応すると、大きな損害を与える罠のような手段があるが、そのような相手をごまかす手段は使ってはいけない。



講師の藤原隆史氏

また、全国大会で日本一になるための秘訣は、メンバー全員のコンディションを大会時にピークの状態にもっていくことと語り、大会前合宿での戦法の固定、実践・研究の積み重ねをするとともに、大会会場までの交通の便まで考慮し、今までの生活のリズムをくずさないよう注意されているとのことでした。

将棋の団体戦は、団体といっても 1 対 1 の戦いになるが、自分の試合が終わったら関係ないという姿勢ではなく、メンバーの進行を思いや

る気持ち、信頼関係を築いていくことも重要だと話していました。

講演者に対し、花平酪農協酪農婦人部会長の名須川千鶴子さんから謝辞が述べられ、講演会は終了となりました。

翌日の 20 日は、牛の博物館（奥州市）と世界文化遺産の中尊寺（平泉町）を視察しました。

牛の博物館は、世界唯一の牛専門博物館で、「牛と人との共存を探り、生命・自然・人間を知る」をテーマとしています。牛の標本や資料、人間との関わりについて等が紹介されていました。



牛の博物館内の様子

その後、三陸海岸の南部へ向かい、東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市を訪れました。被災者で「語り部」の活動をしているガイドの方に案内いただき、震災発生時の恐怖や状況の説明を受けながら、陸前高田駅等、被災地を視察しました。



語り部による案内

海に近い道の駅「高田松原」は、建物の外壁だけが残っている状態。参加者一同は、同施設内にある追悼施設で被害者の冥福を祈りました。被災から2年半が経過した現在でも、市内各地で復興作業が続いており、まだまだ復興支援が必要であることを実感しました。



道の駅「高田松原」

現地視察を終え、翌日 21 日に解散。今年度の研修会は終了となりました。